

<重点課題>

- 1、法人としての中・長期計画をたてる。緑の家保育園築58年。みどりの丘保育園築33年。
建物修築計画・保育計画・職員採用・職員研修・地域との連携など担当者を決める。
→建物修築計画の担当者は決めて会議は開催したがコロナ禍のため、十分に機能が発揮されなかった
- 2、地域新聞を発行し、地域との連携を密にし、卒園児や保護者との関係を深めていく。
－担当者を決める(理事・評議員、職員)2021年度は第1回発行をめざす。
- 3、大森マンション地権者との賃貸借関係を整理し、今後の方針を立てる－担当は決めた。2021年度に実施する。
- 4、緑の家保育園は2020年に70周年を迎え、みどりの丘保育園も、9周年となったが、新型コロナの影響で周年行事は、実施ができなくなった。今後の検討課題である。
- 5、職員の人材確保に努め、研修を工夫して、社会的体験も含めて研究する。
- 6、品川保育問題協議会や東京経営研究懇話会の研究等活動に積極的に参加していく。

<予算・運営について>

- 1、本部予算は、基本的には、大森マンション管理組合からの地代収入によって運営している。
- 2、18年度から、緑の家保育園会計から拠点区分間繰り入れ金として本部会計に入れている。
- 3、みどりの丘の中長期計画をつくり、財政的にもしっかりさせていく。(中長期計画作成にあたり専門家をお願いする)
- 4、緑の家保育園では、園庭整備、園庭側塀の修築を行う。
- 5、予算執行に当たっては、毎月状況をしっかり把握して、改善をはかる。工事契約にあたっては、経理規定に沿って相見積(あいみつ)をして、慎重に行う。各園、稟議書を作成する。
- 6、積立会計(保育所施設・設備整備積立会計等)の整備を行う。

2020年度（令和2年度）事業報告書

【2020年度方針】

- ① リーダー層の育成・及び長期的な展望を策定していく
- ② マニュアル作りを進めていく
- ③ 職員それぞれの仕事内容や量を把握し、できる限り時間内でできるよう考えていく
- ④ 地域福祉計画における社会福祉法人としての役割と責任を持つ
- ⑤ コロナに対する感染症対策に努め、安心な園運営を心がける
- ⑥ 安全に対する温度を職員がしっかり持つ

方針についての反省と課題

- ① リーダー層の育成・及び長期的な展望を策定していく
 - ・キャリアアップ制度によりリーダー層に賃金の保証ができ、意識の底上げにはつながったように思えた。しかし OJT 研修含め研修にほぼ行けず、主任が尽力していたもののなかなかリーダー層に【人材育成】という意識・知識が目標とするところまではいかなかったり、志は持ってくれているものの行動としては現場で生かしきれない場面も多かったように思う。
 - ・主任と相談しあいながら、職員に任せる場面を意識して作ってきた。失敗があったとしてもそこをフォローすることにより、失敗を恐れず仕事に向き合える職員が増えてきた。課題を指摘しあうだけでなく【共に】考えあっていける姿勢が少しずつだが見えてきている。
- ② マニュアル作りを進めていく（一定程度の業務がスムーズに継承できるよう）
 - ・今年度もほぼ着手できていない。園内だけでなく法人、外部機関の協力が必要かもしれないと考えている。
- ③ 職員それぞれの仕事内容や量を把握し、出来る限り時間内で出来るよう考えていく
 - ・残業代を申請制にし、仕事内容や成果を報告してもらうことで、それぞれの仕事内容の把握が少しずつ出来てきた。
 - ・コドモンに慣れ、操作の時間も少しずつ短縮してきているように思う。個人差がある部分が否めないため、研修などでフォロー、カバーしてきた。その結果苦手意識が若干薄れつつある。
 - ・在宅での仕事（コドモン利用）も許可することで（もちろん一定の条件を伝えている）園に残る時間、人数ともに減ってきている。また長く残ることが良いのではないという事が根付いてきており、前進を感じる。
 - ・ZOOMの活用も少しずつ出来ている。
- ④ 地域福祉計画における社会福祉法人としての役割と責任をもつ
 - ・社会福祉法人としての役割と責任という点においては、具体的に計画できていない現状ではあるが、園見学の際に父母の悩みを聞いたり、質問に答えていくなど、まずは出来ることから丁寧に行っている。
 - ・コロナ禍ではあるが、何が出来るのか法人として相談したい。
- ⑤ コロナに対する感染症対策に努め、安心な園運営を心がける

- ・空気清浄機・次亜塩素酸噴霧器（閉園後にタイマーで噴霧）を購入。又消毒回数を倍以上に増やした。
- ・子ども達への感染症に対する指導、パーテーションを立てての食事（透明のパーテーションにして、表情がお互い見えるようにしている）など、子どもの育ちのところで葛藤しつつも対応している。

・玄関前に AI 非接触カメラ式体温測定器を設置し、大人は入室前に体温を測ることを徹底している。（顔と体温が PC に残されるため、万が一のリスクにも備えられるのではと思っている）

⑥ 安全に対する温度を職員がしっかり持っていく

・自粛明けに、児童の顔に傷を残す事故が発生した。経緯をたどると、ヒューマンエラーや意識の足りなさが浮き彫りになった。又その事故が起こった後も確認したことが守られなかったりと、安全への温度を一定程度同じにできるように確認しあってきたつもりだけだだけに、残念だった。（全員がそうなのではなく、意識出来ている職員もいる。）

- ・安全委員会を発足させたが、具体的な動きに至っていない。

保育内容についての反省と課題

・職員同士が意見を言い合ったり、難しい場合は主任・園長への相談ということが定着してきている（問題を見ない振りせず向き合う）

・緑の家の保育が正規職員だけでなく非常勤さんにも少しずつ浸透しているのを感じている。面談などで丁寧に話しているので今後も対応していきたい。

保護者との信頼関係において、園長がうまくいかなくなってしまった際は主任・看護師がしっかりフォローしてくれた。保護者対応のみならず、基本的な組織としての動きが出来てきている。

その他課題

・事務作業がみどりの丘と比べ滞っている件（期限内に終わっていない、更新すべきものができていないなど）について、園長・事務でも話し合い昨年に比べ解消してきたように思う。振り込み忘れ、うっかり、が双方にあるので確認しあいながらミスを減らしていきたい。

又仕事の優先順位を確認し、伝えていく。

- ・園庭の改修工事を進めている。
- ・職員としての意識が足りず、保護者と不適切に業務外のかかわりを持ってしまった職員がいた。丁寧に話をし、理事長にも入っていただき対応している。

・

- ・社会福法人として地域に貢献する義務があると理解しているが、具体的に計画できずにいる。

全体的な反省

コロナの対応に追われ、達成できていないことも多かった。

<2020年度の方針>

- 1 挨拶を励行する。(保育者同士・保護者・近隣・来訪者等)
- 2 ICT化による事務処理と見直しを図り、働き方改革と連動していく。
- 3 施設内の安全対策と園庭整備を職員全体で考えていく。
- 4 保育園を拠点に地域交流の企画を図る。
- 5 保護者と子育てを共有し、日々の保育を伝え合い専門性を生かし支援をしていく。
- 6 他職種と協同し保育を考えあう場、話しあえる場を作り職員関係を丁寧につくっていく。
- 7 各部署のマニュアル作成をする(運営・保育・保健・給食)
- 8 緑の家保育園70周年を祝い、一緒に取り組む。
- 9 みどりの丘保育園10周年に向けて準備会を立ち上げる。

- 1 挨拶を励行する。(保育者同士・保護者・近隣・来訪者等)
 - ・4・5月の緊急事態宣言と終息しない感染症において地域との交流ができない状況が続いた。10月以降の施設訪問は短時間で終えるなど外部と関わりを極力避け、行事へのお誘いもなく来客が殆どない中、園内での挨拶を職員面談項目の中にも入れ意識づける。
- 2 ICT化による事務処理と見直しを図り、働き方改革と連動していく。
 - ・事故簿/ヒヤリハット記録・検食記録・散歩記録のICT化を図った事で緊急事態宣言期間は自宅で指導計画・週案・日誌・通信等保育業務が滞ることなく業務ができたことはよかった。職員全体で記録を共有できるよう非常勤職員への開示をどうしていくか課題でもある。
 - ・働き方改革を進めていくうえで、社会労務士と定期的にミーティングを持つ。労働者が不利益にならない為の整備と労働基準法を下回らないように検討した。(同一労働・同一賃金の考え方をふまえた内容を検討)
 - ・勤務時間ないでできない残務に対し9月より超勤対応となる仕事を整理し導入。超勤をする日は1H休憩し必ず事前申告をする、というルールを周知徹底し進めた。導入により職員のモチベーションがあがった。事務処理は個々に差があり記録するポイント、視点をどうつくっていくかが今後の課題である。
- 3 施設内の安全対策と園庭整備を職員全体で考えていく。
 - ・環境・安全係による定期的な安全チェックを図る。その中で園庭の植栽による怪我(枝などで傷)・砂場の整備問題が未解決となっている。以前共同募金で購入した砂場用具入れは砂場が狭くなり撤去し地下倉庫に活用し砂場用具はかごに分類し取り出しやすくした。今後砂場の整備を検討していく。
 - ・コロナウイルス対策として区からの補助金で空気清浄機・加湿器を購入。登降園時手指消毒・手洗いマスクの着用が定着。保育室に入る前の手洗いが定着した。

今年度の施設・設備計画・安全対策

- ・1歳児室の下水異臭の解決…排水溝にホースをかぶせているだけの施工だった為緊急一時的に養生テープで止めて異臭を防ぐが根本的な解決には至らず。いずれ業者に見て頂きたい案件である。
- ・園児下駄箱の劣化により木くずで怪我をする報告があった為木目を生かした人口材質に変え修繕した。

- 地下のコンクリートの不明な粉の処理…未解決だが人体に影響がないと思われる。
- 0歳児天窗のロールカーテン設置は業者依頼をするが構造上取り付けができないという事で午睡時に保育室の環境を考え解消した。
- AED購入…5年レンタルに切り替える
その他突発的な修繕として1歳児・3Fの網戸 ・2F幼児組3Fのガラス割れによるサッシ入れ替等を整備する。
- 東門の鍵取り付け…門扉の故障が度重なりと共に今後の対策必須である。

4 保育園を拠点に地域交流の企画を図る。

- 今年度においては感染症の為行事のお誘いができなかった。「マミーと遊ぼう」の交流もなくなり残念な1年だった。
- 実習生の受入れ2月の緊急事態宣言かで次年度に変更依頼をする。

5 保護者と子育てを共有し、日々の保育を伝え合い専門性を生かし支援をしていく。

- 緊急事態宣言中は各クラスの担任が保護者・子どもと電話で交流する。子どもたちの元気な声を聞いたり保護者から近況を聞き繋がりが持てた。職員からもっと何かできないか、という声も聞かれた。今後災害その他緊急事態に備え設備だけではない保育園からの発信を考えていきたい。
- 1年間クラス懇談会ができなかった。懇談資料や時にはクラスだよりを各家庭に配信した。ICT化を導入していたことで緊急時対応ができたことはよかった。できることを最大限提供し保護者と子育てを共有していく必要性を感じた。
- 父母の会活動も休止状況だったが、行事参加として子どもたちへのプレゼント(ゆうすずみ会・クリスマス会等)を頂く。1年間保育参加もできなかったが毎月の誕生会や行事はできるだけ多く写真を撮り配信をする。

6 他職種と協同し保育を考えあう場、話しあえる場を作り職員関係を丁寧につくっていく。

- 月1の職員会議がなくなり大きな行事後に会議、その他部署会議や各クラスのミーティング事務などに充てた。
- 話し合う場がない事で各部署における取違い・職員間の関係性が希薄になるなど連携不足による不調和音があった。園長・主任・副主任が一緒に参加し1乳児会議 2幼児会議 3給食・0歳会議 4多職種会議(看護師・用務・事務・給食)を月1回もち運営するにあたってそれぞれの意見を出し合い交流。後半は通常のクラスミーティングに切り替える。

8 緑の家保育園70周年を祝い、一緒に取り組む。

9 みどりの丘保育園10周年に向けて準備会を立ち上げる。

コロナ禍で中止となった。

その他課題として

- 緊急事態・自然災害・水害等に対応する法人独自のマニュアル作成は必須。至急作成していく為の手立てとして理事長・理事・園長で構成し検討したい。
- 退職者補充が厳しく人材確保が出来ない状況は深刻であった。(保育士3名退職/1名採用 病休1名 看護師) 人材確保を法人としてどう進めていくか検討していく。
- 0歳児定員割れの対策…定員数の検討が必要と考える。
- 延長保育利用者の激減対策